

平成17年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰結果発表

平成 17 年 10 月 21 日

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

10 月 21 日、イイノホール（飯野ビル内）において、当協議会のリデュース・リユース・リサイクル推進月間事業の一環として、リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰事業の表彰式を開催いたします。

1. 事業目的

(1) 目的

リデュース・リユース・リサイクル推進に率先して取り組み、継続的な活動を通じて顕著な実績をあげている個人・グループ及び特に貢献の認められる事業所等を表彰することによって、3R 事業の促進と意識の高揚を図ることを目的としています。

(2) 募集並びに審査

平成 17 年 6 月、「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰事業実施要領」及び「同推薦要領」を定め、同実施要領に従い、内閣府・国税庁・文部科学省・厚生労働省・農林水産省・経済産業省・国土交通省・環境省の関係 8 府省の後援のもとに、当協議会会員団体・各都道府県・政令指定都市・建設副産物対策地方連絡協議会を通じて広く募集を行ったところ、全国から多数の推薦がありました。

推薦のあった案件について、審査委員会（委員長 京都大学名誉教授 平岡正勝氏他 15 名）において審査した結果、合計 109 件を表彰することとなりました。

2. 結果の概要

賞の種類		表彰件数
内閣総理大臣賞		1
各府省大臣賞	国務大臣・内閣府特命担当大臣・経済財政政策担当大臣賞	2
	文部科学大臣賞	1
	経済産業大臣賞	1
	国土交通大臣賞	5
	環境大臣賞	1
会長賞		98
合 計		109

3. 表彰式

資料 1 のとおり（P4 参照）

4. 問い合わせ先

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目 9 番 20 号 第 16 興和ビル

財団法人クリーン・ジャパン・センター

Tel 03-6229-1031 Fax 03-6229-1243

〒106-0041 東京都港区麻布台一丁目 11 番 9 号 プライム神谷町ビル

財団法人日本環境協会

Tel 03-5114-1251 Fax 03-5114-1250

<参考資料>

- ・資料 1 : リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰式次第
- ・資料 2 : 各府省大臣賞の概要
- ・資料 3 : リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞の概要

リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰審査委員会委員

氏 名	所 属 機 関
平 岡 正 勝	京都大学 名誉教授
角 田 禮 子	主婦連合会 副会長
木 村 文 彦	東京大学大学院工学系研究科 教授
小 澤 紀 美 子	東京学芸大学教育学部 教授
竹 居 照 芳	(前) 富士常葉大学流通経済学部 教授
辰 巳 菊 子	社団法人日本消費生活アドバイザー ・コンサルタント協会 理事
中 島 芳 昭	日本商工会議所 理事・事務局長
細 田 衛 士	慶應義塾大学経済学部 教授
田 口 義 明	内 閣 府 国民生活局長
岡 本 佳 郎	国 税 庁 審議官
田 中 壯 一 郎	文部科学省 生涯学習政策局長
岡 島 敦 子	厚生労働省 大臣官房審議官
村 上 秀 徳	農林水産省 総合食料局長
肥 塚 雅 博	経済産業省 産業技術環境局長
竹 歳 誠	国土交通省 総合政策局長
由 田 秀 人	環 境 省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部長

リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰式次第

(敬称略)

- 14:00 開会の辞
- 主催者挨拶 リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
会長 平 岡 正 勝
- 来賓祝辞 (各関係府省)
- 賞状授与
- (1) 内閣総理大臣賞授与
 - (2) 各府省大臣賞授与
 - (3) リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞 (代表者) 授与
- 審査総評
表彰審査委員会委員長 平 岡 正 勝
- 謝 辞 (受賞者代表)
- 15:00 (表彰式終了)
- 15:10 講演会
テーマ「循環型社会のキーワード『3R』
ーマニュファクチャリングからエコファクチャリングへ」
講 師 国連大学ゼロエミッションフォーラム理事 谷口 正次 氏
- 16:00 閉 会
- 16:15 懇親会
- 17:30 (懇親会終了)

<表彰式・講演会・懇親会>

日 時 平成 17 年 10 月 21 日 (金) 14:00～17:30

場 所 飯野ビル (7 階 [イイノホール]、9 階 [懇親会場]) 東京都千代田区内幸町 2-1-1

Tel 03-3506-3251 (7 階)、03-3506-5070 (9 階)

● 各府省大臣賞の概要 ●

【内閣総理大臣賞】

項目	概要
受賞者名	関東建設廃棄物協同組合
所在地	東京都中央区
開始時期	1991年6月
活動の区分	リサイクル
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・7回にわたる建設混合廃棄物の組成分析調査等を通じ、建設業界と連携してリサイクルの推進策を立案した。（「分別排出の手引き」「小口巡回回収システムの導入マニュアル」の発刊等） ・単独の会社では困難なメーカー等との協力体制の構築により、再資源化が遅れている品目・市の小さな品目についても研究開発を実施。（石膏ボード、廃プラスチック等） ・組合員同士での中間処理施設見学会等を通じ、業界全体としての問題点の共有化、改善に努めている。 ・平成8年度に建設大臣賞を受賞しているが、その後も先導的な施策に積極的に取り組んでいる。 ・廃石膏ボードの再利用に消極的であった石膏メーカーに対し建設業界と協同で折衝し決められた品質を確保することを条件に合意に至ったこと、セメントメーカーとも同種の協議を重ね「木屑」「廃プラスチック」「石膏ボード」等を原材料・原燃料として利用するルートの開発に成功したことなど、リサイクル先、用途開発を図るため大手メーカーと協同で取り組んでいる。 ・組合と組合員が一体となってリサイクルに取組み新しいリサイクル先の確保とリサイクル量の拡大に努めている。 ・廃プラ類をサーマルリサイクルする大型施設を有する「カムテック」（福山）の開発に成功するなど、協同で取組むことにより単一企業では困難なリサイクル先との提携が可能となり、輸送効率、省エネルギーに結びついている。 ・当組合は、単なる減量化ではなく、「リサイクル」を重視した取組みをこれまで実施しており、建設廃棄物の最終処分量の3割を占めている建設混合廃棄物に対して、組合と加盟会社ならびに建築業協会等の各団体との連携を図りながら、分別の徹底と再資源化の推進を主導的立場に立って積極的に取り組んでいる。

【国務大臣・内閣府特命担当大臣・経済財政政策担当大臣賞】

項目	概要
受賞者名	社団法人 札幌消費者協会
所在地	北海道札幌市
開始時期	1973 年
活動の区分	啓発普及等
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・主婦の「もったいない」という感覚を基本理念として、大量生産・大量消費の風潮をオイルショックを契機に見直すこととし、「限りある資源を大切に」をテーマに「不用品交換会」を実施等。 ・「おもちゃのばくりっこ」・「ブンブンごま作り」・「ふくろうのブローチ作り」等、子供への啓発普及活動を積極的に展開し成果を上げている。
開始時期	1976 年
活動の区分	リデュース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「買い物袋持参運動」：壊れた傘の布地を利用して買い物袋の情報提供、販売。 ・「おもちゃのばくりっこ」：使用しなくなったおもちゃの交換会を実施。
開始時期	1969 年
活動の区分	リユース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「リサイクルバザー」は、札幌消費者協会が中心となり事業を展開し、札幌市の広報誌にも掲載し広く市民に開催を告知した。物品の提供を呼びかけ、非常に多くの市民から賛同を得、環境保全・資源の再利用の重要性やごみ減量化についての普及・啓発・消費者意識の向上をはかった。
開始時期	1977 年
活動の区分	リサイクル
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「牛乳パックの回収」：昭和 62 年北海道に牛乳パック回収業者が設立された事により、リサイクルルートが確立された。 ・「古紙回収」：平成 12 年「チャリティリサイクルバザー」時に、販売しきれなかった衣類をごみにするのではなく回収。 ・「使用済み割り箸回収」：割り箸 3 膳で A4 サイズの紙 1 枚になる貴重な資源であることを啓発するため。

項目	概要
受賞者名	クリーンむさしのを推進する会
所在地	東京都武蔵野市
開始時期	1978年
活動の区分	啓発普及等
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接市にある中間処理施設の周辺住民からの抗議と市の自区内処理の方針化のため「もうごみ場がない！みんなで考えよう」ごみ問題市民集会を昭和52年（参加者450名）及び53年に開催。これを契機に会を結成して活動に取り組む。 ・毎年実施しているが、平成16年度では市内全町地域集会（12カ所・参加者約600名）、市民中央集会（参加者約160名）、シンポジウム（参加者約180名）を開催。市主催の家庭ごみ有料化説明会（93カ所・参加者約6,300名）の運営に参加。会主催は12カ所（参加者約400名）。
開始時期	2002年
活動の区分	リデュース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・どんと焼きにマイ箸・マイカップ・マイ容器持参活動（会員個人が平成8年から実施）。平成14年からイベント（夏から秋のお祭り、コミュニティセンターの文化祭など）に広げた。施設見学の際の昼食にマイ箸、マイカップ持参。イベント食用容器は非プラスチック製（さとうきび殻）を使用し、使用後は市立公園に埋めて発生抑制を図る。新聞の折込みチラシは断る、通信販売は返送する。
開始時期	2002年
活動の区分	リユース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭にある不要品の再利用（レジ袋、陶器、雨用のビニール袋など）。 ・古傘を利用したマイバッグ取り組み。不要になったレジ袋をイベントやフリーマーケット（マイバッグもPR）で再利用。 ・家庭から排出する可燃ごみのうちの雑紙（新聞チラシや通信販売など）が減少し、可燃ごみ総量が減った。（平成16年10月に家庭ごみ有料化により、雑紙を資源化したため約10%減量）
開始時期	1978年
活動の区分	リサイクル
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・集団回収（昭和54年）、陶食器リサイクル（平成15年）、学校の落ち葉堆肥及びコミュニティセンターのお茶殻の堆肥化（平成15年）、割り箸（平成10年）、生ごみ処理容器の斡旋（平成16年度・56台）。夏から秋の地域のまつりやイベント、コミュニティセンターなど文化祭で使用する飲食容器は非プラスチック製容器（さとうきび殻）を使用し、その後に堆肥化で活動。

【文部科学大臣賞】

項目	概要
受賞者名	昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校
所在地	東京都世田谷区
開始時期	2002年9月
活動の区分	リデュース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・2002年9月から始めた学園あげでのISO14001認証取得を目指す活動の一環として、両面印刷や縮小印刷を、教育効果をおとさない範囲で可能な限り行い、紙使用料の削減を図ったところ、毎年のように前年比数%の削減を実現できている。 ・2003年1月に専任全教職員にPCを支給、学内LANを配備して、全学的にデータベースで連絡を取り合いペーパーレス化を図ったところ、教職員間の連絡に使用していた紙の使用料を従来に比しほぼ半減させることができた。 ・学寮などの食事は献立立案の段階から生徒の年齢に応じた摂取量を十分考慮して考案、調理している。無駄な残飯残菜を最小限に押さえるようにしている。 ・可燃ゴミを紙ゴミと紙ゴミ以外の可燃ゴミに分け、紙ゴミはトイレットペーパーの再生工場に100%搬出し、ゴミとしては廃棄しなくなった。 ・調理実習の生ゴミの廃棄量を最小限に徹底。
開始時期	1947年
活動の区分	リユース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷の際に出る反故紙、印刷物の余りなどで、裏面の使用が可能なものは大きさを区分して1カ所にまとめて置き、裏面印刷またはメモ用紙に再利用している。 ・外部から郵送される郵便物の封筒または生徒の家庭から提出された封筒類を、可能な限り再利用している。 ・大学案内などのファイルを、教員の書類区分に再利用している。 ・生徒も自由に使用できるように校内に設置場所を決めてまとめておき、絵の具やマジックなどを使用する際の下敷き用として、また、汚物廃棄時の目隠し用として再利用している。 ・コスタリカの学校との交流を深め、生徒の家庭で不要となった絵本を日本語教育に役立てるために発送し、大変喜ばれている。 ・他校で廃棄処分のイス等をもらい受け再利用している。
開始時期	2002年9月
活動の区分	リサイクル
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・空き缶、ペットボトルの分別回収。 ・紙ゴミからトイレットペーパーを再生。 ・調理実習の生ゴミから肥料作り。

【経済産業大臣賞】

項目	概要
受賞者名	東洋インキ製造株式会社 印刷・情報事業本部 オフセット事業部 有限会社アップコーポレーション J F E コンテナ株式会社 営業企画室・物流管理室
所在地	東京都中央区、東京都葛飾区、兵庫県伊丹市
開始時期	2002年1月
活動の区分	リサイクル
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・オフセットインキ缶リサイクルシステム「東洋 MP エコサイクル (TME) システム」を共同で開発し、ドラム缶更生時の洗浄工程をなくすことによる環境負荷低減とコストダウンを実現したドラム缶のリサイクルシステムを完成させた。 ・薄手のブリキ製カートリッジを内装したドラム缶 (MP ドラム缶) を、オフセットインキの容器として使用し、使用后、内容物に直接触れる内装缶のみを脱着・交換を行うことによって、ドラム缶のリサイクルを容易にし、更生時に発生していた洗剤・溶剤等の廃棄物を大幅に削減した。また、内装缶や残肉を建設資材 (丸棒) やセメント助燃材として再資源化した。 ・他社に先駆けて MP ドラム缶を用いることにより、洗剤・溶剤や残肉など通常のドラム缶更生時に発生する環境負荷を低減すると同時に、MP ドラム缶システムの全国ネットを構築した。 ・MP ドラム缶は、厚さ約 0.23mm のブリキ製カートリッジ (内装缶) を外装ドラム缶の内側に隙間なく密着させるもので、ドラム缶上部の巻き込み部分に特殊な加工を施すことで、内装缶が外装缶にしっかり巻き付けられるようにした。また、内装缶の自動脱着装置も作成した。 ・外装缶を循環使用 (MP ドラム缶では 15~20 回) しているため、ドラム缶の安定供給が可能になり、ドラム缶を用いた不法投棄の抑止にも繋がる。

【国土交通大臣賞】

項目	概要
受賞者名	株式会社竹中工務店 東京本店 NIPPO 蒲田 3 丁目共同住宅新築工事
所在地	東京都大田区
活動の区分	リサイクル
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社竹中工務店は「環境にやさしい建築技術の展開と環境と調和する空間創造に努め、社会の持続的発展に貢献する。(地球環境憲章)」を掲げ、ゼロエミッションにも積極的に活動を行なっている。 木造密集地域内にある地下 1 階、地上 20 階のタワー型マンションの新築工事である。NPO 法人支援による再開発事業であり、また建築主が公的補助金制度を活用しており、大田区役所を始め地域から大いに注目を集めている。着工前より可能な 3R 活動を最大限に行なうべく計画し、期中、作業所内及び内勤支援部門、協力会社と協業し、活発な 3R 活動を展開している。 リデュース活動においては、「地下躯体工法の改善」、「型枠工法の改善」、「PCa 化の積極的な採用」、「仕上材のプレカット化」を行い、現状、リデュース目標 100 m² 当り 10 m³ に対し、実績 9.2 m³ を達成し、発生抑制の徹底が行なわれている事が証明されている。

項目	概要
受賞者名	戸田建設・東洋建設・山陽建設共同企業体 山田川ダム本体工事作業所
所在地	広島県広島市
活動の区分	リデュース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 3 年 3 ヶ月間の全工期を通じて、工事で発生する建設系廃棄物は勿論のこと、現場事務所から発生する事務所ゴミ、食堂の生ゴミなどの一般廃棄物及び仮設事務所解体時に発生する廃棄物等の全てを対象とした計画的な 3R 活動によるゼロエミッションを達成した。 工事着手前に仮設材料を含めて工事で使用する全ての材料や予測される廃棄物を拾い出し、3R 活動を基にして工法変更や技術検討による計画的ゼロエミッション活動を確立し、各再資源化処理会社の調査及び現場での分別収集活動を徹底し、ゼロエミッションを達成した。 トレスル構台において全ての鋼材にリース材を採用し、その接合方法はブルマン方式(対象物を挟み摩擦力固定方法)を採用し、スクラップ発生を低減した。
活動の区分	リサイクル
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 作業所で発生した廃棄物は、リデュース・リユースに取り組んだ後、どうしても廃棄物として外部へ搬出するもののリサイクル化を実施した。このため、現場廃棄物を 16 品目に、事務所から出る廃棄物を 12 品目に分別し、社員から作業員全員による分別収集活動を徹底し取り組んだ。

項目		概要
受賞者名		清水建設株式会社 建築事業本部 東京建築第三事業部 (仮称) 豊洲 IST ビル新築工事 建設所
	所在地	東京都港区
	活動の区分	リデュース
	活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・設計施工である事を生かし、設計段階でのリデュース、施工段階でのリデュースとして活動した。 ・リサイクル施設を徹底的に調査して、リサイクル施設に対応した分別を行い、混合廃棄物原単位（延べ床面積当たり混合廃棄物排出量）の目標 7.4kg/m²以下にチャレンジし、1.7Kg/m²を達成することができた。 ・解体工事時に発生したコンクリートガラを解体期間中に排出せず現場内にストックしておき、新築工事時にリサイクルして使用した事により減量化を達成できた。 ・特に、今まで実施されていなかった廃プラスチック、紙くず等の建設副産物を RDF 燃料にサーマルリサイクルすることができた。分別品目数を 20 種類のうちリサイクル施設へ搬出するものと、しないものを表示した。
	活動の区分	リサイクル
	活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・既存建屋解体から工事を始める事を生かし、新築工事で利用できるものをリサイクルする事を推進した。また、発生した建設副産物をマテリアルリサイクル、サーマルリサイクルできる施設へ搬出する事を推進した。 ・解体工事時に発生したものを解体期間中に排出せず現場内にストックしておき、新築工事時にリサイクルして使用した事により減量化を達成した。

項目	概要
受賞者名	株式会社大林組 東京本社 地球環境室
所在地	東京都港区
開始時期	1999年 11月
活動の区分	リデュース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・1999年度から建設現場のゼロエミッションに取組み、2001年度からゼロエミッション活動を全店（建築工事）に展開している。2004年度からは土木工事にも展開し、2005年度からは全建築現場でゼロエミッション活動を実施している。 ・現場ゼロエミッションを開始した当時と、昨年度迄の廃棄物排出実績を比較すると、新築工事の建設廃棄物排出量（汚泥を除く）は、1999年度の59.4万tが2004年度には32.4万tとなり、2002～2004年度の削減量の累計は約47万tと、大きな発生抑制効果を上げている。これをCO₂削減効果（収集運搬・中間処理の減）に換算すると、約5,700t-CO₂となる。
開始時期	1999年 11月
活動の区分	リユース
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・建設発生土、建設汚泥、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊、木くずのリユース。 ・鉄骨の半自動溶接に使用する溶接用ワイヤのリールの再使用。従来の使用後廃棄を、メーカーに戻しワイヤを再巻き直しして再使用。 ・鉄骨梁の耐火被覆吹付時の養生シートの再使用。
開始時期	1999年 11月
活動の区分	リサイクル
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・建設汚泥、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊、その他がれき類、木くず、廃プラスチック、金属くず、ガラス陶磁器くず、廃石膏ボード、紙くず、混合廃棄物、有価物、他。 ・協力会社毎に、担当工事で使用する資材の種類と搬入量、使用資材毎に予想される廃棄物の種類と量、廃棄物毎の削減策と予想される削減量を記入して作成するゼロエシート作成によって、再資源化ルートを予め計画的に用意出来る。 ・品目毎の分別容器に、廃棄物の具体的な例（資材の名称）や間違い易い例、注意点（濡れ・汚れ・糊付き不可、ガムテープ剥がす、金物外す、処理費がm³契約のため隙間無く詰める、等）、リサイクル後の製品、等を判り易いイラストで表示して、分別意識を高め、分別精度を向上させる。

項 目	概 要
受賞者名	積水化学工業株式会社 住宅カンパニー
所在地	東京都港区
活動の区分	リサイクル
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1999 年度より生産会社のゼロエミッション活動を始め、2001 年度上期に全工場ゼロエミッション達成、続いて 2003 年上期に全国新築現場、2004 年度末で全国リフォーム現場のゼロエミッションを達成（廃棄物の埋立および単純焼却ゼロ）。 ・ 自社販売住宅について生産から新築現場、リフォーム工事（一般リフォーム含む）に至るまで一貫して全国レベル、全現場でゼロエミッションを達成した。 ・ 施工現場が散在し、ひと現場の廃棄物排出量が比較的少ない新築現場、更に工事種別が戸車の交換のごく小規模な工事から塗装工事のような中規模工事、キッチン・浴室改装のような大規模工事まであるリフォーム工事現場等、多種多様な工事に対応し、効率よく廃棄物処理を推進する為、各社各拠点にて自社専任社員による廃棄物回収、自社廃棄物保管場所の運用を推奨モデルとして全国展開している。

【環境大臣賞】

項目	概要
受賞者名	春日市生活環境組合連合会
所在地	福岡県春日市
開始時期	1983年
活動の区分	啓発普及等
活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・春と秋の年2回、各地区の環境組合を中心に住民を挙げて市内の一斉清掃を行っている。 ・春と秋の年2回、春日市役所市民駐車場にてフリーマーケットを開催している。その際にごみの減量やリサイクルを訴えるパネル展・体験コーナーなどを実施し、全体を通して3Rを学べるようにしている。 ・燃えるごみの処理施設である、クリーンパーク南部（福岡市南部工場）と燃えないごみの処理施設である、春日大野城リサイクルプラザでどのような処理を行っているか、春日市住民を対象に施設見学を実施している。 ・春日市は市街化していることから堆肥化する際に発生する臭いの苦情や生ごみを堆肥化してもなかなか使い道がないといった問題がある。そこで、マンションなどでも気軽にでき、楽しんで生ごみを減量できる方法を研究している。 ・環境美化・3R推進のための支援活動。

— ● リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞の概要 ● —

項 目		概 要
受賞者名		奥尻町高齢者事業団
	所在地	北海道奥尻郡
	開始時期	1991年4月1日
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・活動の動機は資源の有効利用と、島内環境美化を図ること。 ・奥尻町高齢者事業団は、平成3年4月1日設立、資源の有効活用と島内美化及びごみに対する住民意識の向上をもって、リサイクルの必要性、環境保全、廃棄物の発生抑制など意識の向上に大きな成果を上げている。 ・地域に根付いている高齢者がやりがいをもって働く場を提供することで、ごみに対する地域住民意識の向上及び観光地である島内美化並びに地域コミュニティの活性化を図っている。

項 目		概 要
受賞者名		天羽田子供会
	所在地	千葉県市原市
	開始時期	1980年7月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和48年7月に発足し、昭和55年7月より子供たちが中心となり、資源回収を実施（同年に市原市に登録）。以来、20年以上にわたる資源回収行動を通じて、ごみの減量化、再資源化に貢献し、リサイクルに関する地域住民の意識を高めてきた。 ・回収の実施にあたり、地域への回収のお知らせを子供たちが作成し、地域や作成する子供達自身へ資源の大切さ等の啓発を図っている。 ・参加する子供達の間でのコミュニケーションが活発になっただけではなく、地域の町会も非常に協力的とのことであり、回収量にもそれが反映されており（平成16年度16,909kg）、他の団体の模範となっている。

項 目		概 要
受賞者名		特定非営利活動法人 ザ・ピープル
	所在地	福島県いわき市
	開始時期	1992年5月
	活動の区分	リユース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・福島県いわき市内 20 箇所に設置したリサイクルボックスを利用して市民から古着を集め、これをボランティアスタッフが回収・選別し、リユースできるものは直営店で販売等をする。古繊維リサイクルの下地がなかったなか、市民団体として取り組むことができるリユース・リサイクルシステムを独自に構築している。 ・営利を目的とせず、ボランティアが中心となって活動を実施することにより、幅広く市民の支持を受けている。

項 目		概 要
受賞者名		生活協同組合コープやまなし 環境対策室
	所在地	山梨県甲府市
	開始時期	1992年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県大月市の主婦グループが、1984年に全国で最初に始めた牛乳パックリサイクル運動の取組みに、活動当初より参加している。牛乳パック回収運動に対しては、全国生協の中でも最初に参加した生協である。市民団体「パックネットやまなし」と連携し、スーパーや店舗で牛乳パック再生利用の呼びかけ運動を行っている。 ・学校では手すきハガキ作りの工作教室を実施し、牛乳パックを再利用できるということをアピールしている。さらに、各種イベントを通し、リサイクルの普及啓発に努めている。その結果、牛乳パックの供給に対する回収率は 97%と大変高い数字となっている。

項 目		概 要
受賞者名		大洲市徳森婦人会
	所在地	愛媛県大洲市
	開始時期	1993年4月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・大洲市の社会教育団体であり、地区の婦人 45 名で構成されている。平成 5 年に地区内美化運動として始まり今日に至る。定期的に回収日を決め（夏場は毎週、冬場は月 1～2 回）回収活動を行い、回収箱を用意している公民館に集積している。公民館を集積場所とすることにより活動を理解してもらうようかつ目立つよう工夫している。 ・会員が大洲市の他婦人会、地域周辺協力者、公民館利用市民などに常に「声掛け」運動（アルミ缶の回収に協力するよう声掛けをする）をすることにより、多くの協力者を得、多大な成果（回収量）を上げている。活動は 12 年間続き、現在なお継続中である。 ・婦人会活動を中心として、「声掛け」運動、分別収集の必要性、方法等を PR して協力者を増やしている。

項 目		概 要
受賞者名		本町南町会美化部
	所在地	東京都渋谷区
	開始時期	1991年4月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・平成 3 年に町内の環境美化、保全及びごみ減量を目的として町内会役員が中心となって活動を開始した。渋谷区で開催される環境問題の講習会には役員が出席し、情報を収集した内容を町内会会員に伝え、美化活動を活発化している。町内会会員数 1350 世帯。 ・町内には 15 ヶ所にごみ回収専用の籠を設け、毎週金曜日を回収の日と決めて町内美化部の役員 13 名で回収作業を行っている。町内会専用のリヤカーを用いアルミ缶ほか、資源ごみを回収している。資源集団回収団体として渋谷区に登録し積極的に活動している。

項 目		概 要
受賞者名		彦根市立城陽幼稚園
	所在地	滋賀県彦根市
	開始時期	1992 年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・平成 4 年、清掃活動を通じて園児の情操教育に役立てようと PTA 保護者が集まり開始した。月 2 回幼稚園の周辺などの清掃を実施し、アルミ缶、新聞紙等資源ごみの回収を行っている。また、地域の自治会、会社等にも資源の提供を依頼している。 ・園児とともに清掃を行い環境保全の重要なことを体験している。また、地域との連携を図ることで、コミュニケーションを良くし、地域活性化に役立っている。収益金を人形劇など普段体験できないような経験を得るため有効に活用している。

項 目		概 要
受賞者名		調布わりばしリサイクルグループ「くるりん」
	所在地	東京都調布市
	開始時期	1999 年 3 月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・使用済みのわりばしを回収して箱詰めし、合板工場等のリサイクル工場（企業）に供給している。わりばしに特化したリサイクル活動や、出前講座、ボランティア体験講座、市内のイベントでの展示等幅広い活動を行い、市民参加によるごみ減量、環境ボランティア活動を実践している。リサイクル方法としては、パーティクルボードの原材料での使用や、竹わりばしを炭焼き釜で焼いて炭とし、消臭材としてリサイクルしている。

項目		概要
受賞者名		稲城市リサイクルショップ運営委員会
	所在地	東京都稲城市
	開始時期	1994年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル品等を引取り、修繕・クリーニングして販売を行うとともに、リサイクルの活動拠点として、情報提供やリサイクル相談等を実施している。 ・稲城市リサイクルショップは、平成6年10月市民のごみ減量、リサイクル活動を推進するため、市民の参画の場・情報発信の場・交流の場の拠点としてオープンし、10年以上にわたりリサイクル活動を行っている。 ・廃食用油から、安全で環境に優しいリサイクル石鹼を手作りし、販売している。また、再生紙を使ったトイレトペーパー「稲城っ子」の販売普及促進を行っている。

項 目		概 要
受賞者名		亀岡市立千代川小学校
	所在地	京都府亀岡市
	開始時期	1994年12月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動や体験活動に重点を置きながら、ごみ減量化や新聞、雑誌、段ボール等のリサイクルを実践することにより、千代川町の自然を守り、命を大切にする「住みよいまちづくり」を推進する活動を実施。 ・環境教育の一環として、清掃活動等を地域と連携して取り組んでいる。地域で排出されるリサイクル品については、PTA と連携した廃品回収を年に2回実施している。

項 目		概 要
受賞者名		広島県広島市立日浦中学校
	所在地	広島県広島市
	開始時期	2000年9月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・平成12年から生徒会の取り組みとしてアルミ缶回収を行い、リサイクルの意義を学び、その収益金で特別養護老人ホームを初め、インドネシア共和国、ウガンダ共和国、スリランカ民主社会主義共和国、近隣高校へ車椅子を寄贈している。既に寄贈した車椅子の台数は40台である。 ・生徒会の活動として全校生徒が参加し、自主活動として行っている。回収依頼から回収まで取り組み、対象地域は学校周辺を主体に、広域な範囲での活動となっている。

項 目		概 要
受賞者名		こまばリサイクルの会
	所在地	東京都目黒区
	開始時期	1993年12月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・フリーマーケット、各種リサイクル工場見学、リサイクルキャンペーンの参加や生ゴミの堆肥化を行い、リサイクル活動の普及・啓発活動の実践。ある特定のものにこだわらず、幅広くリサイクル活動を展開。 ・地域の小学校や児童館との合同イベントを多く行った。区民まつりでゴミ分別収集を提唱、実践し、ごみ減量に大きく貢献した。

項 目		概 要
受賞者名		大角 正信
	所在地	福井県福井市
	開始時期	1985年
	活動の区分	啓発普及等
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和60年、他に先駆けてごみ資源のリサイクルを始める。昭和62年、福井市のくらしと環境をよくする会を設立。会長として、業界、消費者、行政に働き掛けリサイクルの推進に努めた。また、個人としても、県内各地で開催される環境学習会等に講師として参加。 ・昭和60年頃、市民の声を聞き、他の小売店に先駆けて、勤務するスーパーで、牛乳パック・トレーの回収業務を始める。その後、ペットボトルの回収も手がけ、市内の小売店にその活動を広める。

項 目		概 要
受賞者名		たねや グループ 総務部エコロジー推進課
	所在地	滋賀県近江八幡市
	開始時期	2001 年 12 月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ バームクーヘンの製造工程から発生する加工ロスや端材の焼却処分量の削減を図る為、平成 13 年 12 月、守山の工場に乾燥処理機を導入。滋賀県内の全工場、工房において同様の活動を展開している。 ・ 自社の食品廃棄物リサイクル率約 60%を達成（平成 17 年 4 月現在）。 ・ バームクーヘンの加工ロスなどを乾燥処理することにより、高品質な養豚の飼料の材料としてリサイクルしている。飼育した豚肉を自社のレストランで提供している。

項 目		概 要
受賞者名		丸紅株式会社 機能アパレル部
	所在地	東京都千代田区
	開始時期	2003年2月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・繊維業界では、反毛というリサイクル手法が歴史的に行われてきたが、反毛綿の売先に限界があり反毛業が弱まる中、異業界の鉄鋼業界と手を結び、安定的な受入れを可能とする回収・再資源化・供給ルートを構築した。 ・企業向けユニフォーム販売にあたり、再生繊維（ポリエステル・綿等）を積極的に採用し、企業のユニフォームの再利用（リユース）をシステム的な支援を含め促進させ、また、使用済みユニフォームの大量の廃棄に対し、安定的なマテリアルリサイクルとすべく、鉄鋼業界への資源供給としてのルートを構築した。

項 目		概 要
受賞者名		株式会社 三興
	所在地	埼玉県三郷市
	開始時期	1972年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・容器包装リサイクル法のその他プラを原料とするマテリアルリサイクルの商品開発をはじめとし、複合材による成型テスト、製品毎に求められる要求を満足させる配合比率等のノウハウを武器に商品開発を行っている。 ・あらゆる種類の廃プラスチックに対し、成型品に仕上げる技術力を保持すると共に、リサイクル機器開発、製造業務も併設しているため、成型においては、金型設計・製造等を自社にて行える強みを持つ。

項 目		概 要
受賞者名		昭和電工株式会社 化学品事業部門
	所在地	神奈川県川崎市
	開始時期	2003年4月1日
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・事業開始以来3年間で、12万tの廃プラスチックをリサイクルし、埋立処分場の延命化に寄与した。また、当リサイクル施設では投入されるプラスチックのほぼ全てが化学原料として活用可能であり、残渣のない完全なケミカルリサイクルである。 ・当リサイクル技術は使用済みのプラスチックを分子レベルまで分解することによって、種々の化学製品へとリサイクル可能となる技術であり、ガス状のマテリアルリサイクルと言える。この技術を化学工場へ設置したことで、残渣の発生が無いゼロエミッションの完全リサイクルを可能とした。

項 目		概 要
受賞者名		協栄化成株式会社
	所在地	東京都台東区
	開始時期	1956年8月1日
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・軟質塩化ビニールのスクラップを品質別、用途別に分類し、選別、粉碎、断裁等の加工を仕向け先の加工機に合わせて行い、市場のニーズに対応している。 ・加熱による分解劣化を最小限に抑える為、常温での加工を主体にして、粉碎、断裁の工程により、再生原料を使用する加工メーカーの設備に合った形状での供給をし、安定した原料の供給に努めている。 ・塩化ビニールの廃棄物はダイオキシンの関係で、埋め立て処分となるが、リサイクルを行う事により、埋め立て処分場が其の分だけ節約でき、さらに間接的に市場に安価な製品を供給する事が可能となる。

項 目		概 要
受賞者名		北九州松下電工株式会社 製造部生産技術課
	所在地	福岡県北九州市
	開始時期	1997年12月
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・キッチンカウンターシンク及びガスレンジ穴抜き材の削減。 (効果：508万円/年削減) ・1996年にISO14001のマルチサイト認証を取得。2001年9月からゼロエミッション活動を開始。 ・調達から廃棄までの業界トップレベルの廃棄物リサイクルガバナンス体制を拡大することで、不法投棄の未然防止に繋がる。 ・資材納入メーカーに省梱包/通函の徹底や、リサイクラーへの適正処理確認など、調達から廃棄まで業界トップレベルの廃棄物リサイクルガバナンス体制を構築。 ・eマニフェストを活用し、許可書・契約内容の順法確認機能を付加した廃棄物管理システム導入。廃棄物管理実務研修（社内研修）あり。

項 目		概 要
受賞者名		株式会社 藤川紙業
	所在地	東京都荒川区
	開始時期	1948年4月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・出版社・新聞社から返品された雑誌・新聞（産業古紙）を直接仕入れるほか、地域住民・企業等から排出される回収古紙についても集荷業者（回収業者）等を通じて受け入れた後、自社で選別・加工して製紙メーカーに納入している。 ・バーコード検品システムの開発及びデータのコンピューター処理化を実現しており、各出版社・新聞社及び流通業者との間で正確・迅速な検品・紙質別仕分けデータの自動処理及び古紙化処理能力のアップに貢献している。 ・各出版社・新聞社及び流通業者と連携して返品処理業務の自動化・情報化・正確化に貢献、紙質ごとの綿密な仕分けを可能とすることにより産業古紙の効率的な再資源化システムを構築した。

項 目		概 要
受賞者名		株式会社 磯野商店
	所在地	山口県防府市
	開始時期	1967年7月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や企業、又各種団体等から排出される古紙等について、集荷業者（回収業者）等を通じて受け入れるほか、直接排出先へ出向き回収し、自社で選別・加工して製紙メーカー等に納入している。 ・ゴミの減量化を図るため、町内会等で実施される集団回収等において、リサイクル品目を多くすることにより、回収量を増やし地域環境に貢献している。 ・本社・支店共に24時間体制・年中無休で古紙の受入れを実施している。

項 目		概 要
受賞者名		株式会社 西原商店
	所在地	熊本県熊本市
	開始時期	1974年3月1日
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や事業所等から排出される再資源化物について、集荷業者（回収業者）等を通じて受け入れる他、直接排出先から回収し、自社で選別・加工して製紙製鋼及び飲料メーカーに納入している。 ・古紙梱包機を昭和43年に導入し、業界に先駆け機械化を進めている。 ・古紙業界発展のため、熊本市再生資源協同組合を設立し、組合活動に尽力し、理事長会社として活動している。 ・ISO14001を取得し、社員の環境教育を徹底している。

項 目		概 要
受賞者名		オムロン株式会社 業務総括部 東京事業所 虎ノ門業務課
	所在地	東京都港区
	開始時期	2000 年秋
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ ISO14001 の取得を機に分別活動を加速。特に 2004 年度から分別の細分化を実施している。また、2001 年に事業所の大規模なリニューアル工事を実施。以降、特に空調設備関連での大幅な省エネを実現している。 ・ 埋め立てや単純焼却を避けるべく、リサイクル率の高い廃棄処理業者の選別、処理施設の視察等を行い確実な廃棄処理を実行。 ・ ゼロエミッションを意識し、独自の社内規格レベルⅡ（中間処理業者及び再資源化業者に処理を委託した廃棄物を中間処理量、再資源化量、最終処分量に区分し、各数値を正確に把握し、サイトトータルでの再資源化率を 98%以上とする＝実質再資源化）適合を目指した事業所運営を行う。

項 目		概 要
受賞者名		富士電機リテイルシステムズ株式会社 製造統括本部 埼玉工場 製造部 製造技術課
	所在地	埼玉県北足立郡
	開始時期	1996 年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在は独自のリサイクル効果率を上げる取組みに挑戦している。廃プラスチックを正確に分別し、リサイクル性を良くし中国へのマテリアルリサイクルにも取り組んでいる。 ・ 廃棄物の社内置場として、いち早く専用のリサイクル倉庫を設けた。ゼロエミッション達成後は、新たな活動目的として、リサイクルの種類により「ポイント点数」を付与し、排出量に乗じて評価点を表し、合計の評価点を下げて、リサイクル効率の向上を考えている。 ・ 排出される段ボールを、社内で使用するサービス部品の緩衝剤に活用するなどをしてリサイクルを推進している。 ・ 廃棄物の最終処分（埋立て）量を、年間 0.6t に削減し、産業廃棄物最終処分場の確保に努めている。

項目		概要
受賞者名		東芝家電製造株式会社 家電機器開発部 東芝家電製造株式会社 総務部 環境管理担当 東芝家電製造株式会社 愛知商品製造部 製造技術・生産管理担当
	所在地	愛知県瀬戸市
	開始時期	2002年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・従来、埋め立て・焼却処理等されていた使用済みプラスチック材を廃家電（洗濯機・冷蔵庫）から回収し、家電新製品用部品としてリサイクルを実施。 ・埋め立て・焼却処理等されていた廃プラスチックの家電新製品部品へのリサイクルにより、プラスチック・バージン材の使用量及び廃棄量が減量化されると共に、プラスチック・バージン材製造時に使用されるエネルギー量、CO₂発生量が低減された。 ・廃プラスチック材料のリサイクル率向上のため、再商品化拠点に、リサイクル率の高い手解体法を採用させ、回収率を向上させると共に独自開発の樹脂改質技術を駆使し、リサイクル材の適応範囲を増やしている。これにより、リサイクル材100%で構成した洗濯機等の部品も実現。

項目		概要
受賞者名		松下冷機株式会社 冷機デバイス事業部 草津工場 断熱デバイス製造チーム
	所在地	滋賀県草津市
	開始時期	2002年11月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫・高性能真空断熱材（U-Vacua）の製造工程では原材料であるガラス繊維の端材が年間約900t発生していた（2003年度実績）。これらは産業廃棄物としてサーマルリサイクル後、残渣を埋立て処理していたが、原材料の供給工法を工夫すると共に、「芯材切断トリミングソフトの開発導入」を行うことにより、2004年度には約300t削減することができた。 ・さらに「端材微粉碎装置」を開発導入することにより、端材を再び原材料として使用できるようにした。この結果、業界で初めて完全マテリアルリサイクルを実現し、製造工程での「ゼロエミッション」を達成した。

項 目		概 要
受賞者名		川崎重工業株式会社 総務部 地球環境室
	所在地	兵庫県神戸市
	開始時期	2000年9月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<p>・従来、事業活動から排出される廃棄物につき、埋立て、焼却等の処理を行ってきたが、2000年の循環型社会形成推進基本法制定を機に総務部・地球環境室が中心となり、関西地区工場の環境担当者をメンバーとした「ゼロエミッションワーキンググループ」を設置。2005年3月末までに川崎重工（単独ベース）全工場から排出される廃棄物を100%リサイクルすると言う「ゼロエミッション」目標を設定し、取組みを行った結果、重工業界としては初めて全工場のゼロエミッションを達成。</p>

項 目		概 要
受賞者名		三菱電機 株式会社 福山製作所 生産システム推進部
	所在地	広島県福山市
	開始時期	1997年11月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<p>・三菱電機株式会社福山製作所は1943年の操業当初より、金属回収（鉄、アルミ、銅等）を実施。1985年より機密書類シュレッダー材を製品梱包材で利用、故紙・廃ダンボールの再生紙化を実施していたが、1997年11月にISO14001の認証取得を契機として脱水汚泥のセメント原料化、廃油の燃料化等さまざまなリサイクル活動を本格的に開始し、廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化の3R活動を更に加速、推進した。2004年4月には全ての廃棄物（産業廃棄物、事業系一般廃棄物）についてゼロエミッション（100%再利用、再資源化）を達成した。</p>

項目		概要
受賞者名		SRI スポーツ株式会社 市島工場
	所在地	兵庫県丹波市
	開始時期	1997年
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ゴルフボール製造工程における有機溶剤使用量の削減活動を1997年からスタートした。多岐にわたる改善を行い、年々減少を続け、2004年度有機溶剤使用量は1997年度に比べて77%削減した。 ・有機溶剤排出量について、全社の中期目標（2010年度に2000年度の水準よりも20%の削減を達成する）を上回る60%削減を達成し、更なる削減に取り組んでいる。さらに、有機溶剤削減活動を端緒として、ISO14001の認証取得、ゼロエミッション達成へも展開が進められている。

項目		概要
受賞者名		SRI グループ スミラバー・インドネシア社 チカンペック工場
	所在地	インドネシア チカンペック インド大成工業団地
	開始時期	2003年
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・2003年のISO14001取得に加え、工場から排出される廃棄物のゼロエミッション（埋立廃棄物の発生率を全廃棄物排出量の1%未満に押さえる）の達成を目指し、従業員一人ひとりの環境に対する意識改革および廃棄物発生抑制等を求めて活動を推進した。 ・「廃棄物の分別」という習慣が全くないところからスタートしたが、従業員の努力により短期間にてゼロエミッションを達成した。 ・インドネシアでもISO14001を取得する企業は増えてきているが、ゼロエミッションに取り組む企業は少ない。日本のタイヤメーカーの海外工場として、本活動を実施・達成したのは初めてである。

項 目		概 要
受賞者名		竜王町商工会 事務局長 沖 良治
	所在地	滋賀県東近江市
	開始時期	2001年9月10日
	活動の区分	啓発普及等
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・取得した ISO14001 の経験と、環境審査員補及び、滋賀県地球温暖化防止活動推進員として、びわ湖環境ビジネスメッセにも出展するとともに、事業者に対し啓発普及、教育指導活動を行った。 ・事業者に対し、ISO14001 取得教育、指導している。また、竜王町商工会女性部に環境保全の教育を実施し、エコノミーバックの製作販売へと指導した。 ・2002年11月21日、全国の商工会で単独初 ISO14001 取得し、専門資格を有し、この経験を活動に活かしている。

項 目		概 要
受賞者名		油藤商事株式会社
	所在地	滋賀県犬上郡
	開始時期	1998年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・「ガソリンスタンドはまちのエコロジーステーション」というコンセプトのもと、オリジナルな事業展開を行う。まず家庭より排出された資源ごみの分別回収、廃食用油リサイクル液体石けんを使用したエコ洗車、廃食用油リサイクル燃料の「バイオディーゼル」を一般販売している。 ・利用者は、自分のライフスタイルに合わせて容易に家庭の資源ゴミを持ち込むことができ、また GS にとってもその行為が来店動機になる。GS は有人回収所なので、回収ステーションとしての本来の機能を発揮することができ、地域社会にも貢献できるステーションになることができる。

項目		概要
受賞者名		パナソニック モバイルコミュニケーションズ株式会社 横浜地区
	所在地	神奈川県横浜市
	開始時期	2003 年
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> 従来は、地区ごとにトラックによる台貫により廃棄物量を把握していたため、どこの部署がどれ位の量の廃棄物を出しているかわからなかった。バーコードによる廃棄物計量システムを 21 台導入することにより、職場で容易に廃棄物の量が把握できるように改善し、廃棄物の発生抑制に結びつけた。 リデュース量 廃棄物削減量：2003 年 177t、2004 年 171t
	開始時期	1996 年
	活動の区分	リユース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> 不要な什器類が出た場合に環境センターが社内のイントラネットに公開し、使いたい部署に手をあげてもらい処理をする。社内で処理が出来ない場合は、社外の共栄会社、町内会を紹介をする。処理ができない場合、最後は、リサイクルショップへ売却または無償提供する。実装部品用マガジン、リールのうちリユースができる種類のものを分別保管し、無償で部品メーカーが引取りリユースをする。 リユース量 什器類：2002 年 28t、2003 年 20t、2004 年 16t 実装部品用マガジン、リール、トレイ ：2002 年 35t、2003 年 26t、2004 年 22t
	開始時期	1997 年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> 「ゴミではなく、資源」を合言葉に品目ごとにリサイクル業者を開拓し、リサイクルルートを構築した。 リサイクル量 2002 年 1921t、2003 年 1751t、2004 年 1577t

項 目		概 要
受賞者名		日立工機株式会社 環境本部 環境推進センタ
	所在地	茨城県ひたちなか市
	開始時期	1998 年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 1999 年 5 月、ダイオキシン発生防止を目的に社内焼却炉での産業廃棄物焼却を止めた。これを機会に従来の廃棄物分別方法の見直しを行った。 ・ 具体的な分別見直しは、製造工程から排出される廃棄物の材質や性状を調査し、調査結果をもとに委託業者の協力を得てリサイクル可能品の洗い出しを行った。その結果、廃棄物を 115 種類に分別してリサイクル化の推進と最終処分率の低減を図った。 ・ 廃棄物を種類毎に分別回収し、紙くずは製紙工場へ、プラスチック成形品、発泡スチロール溶融品はリサイクル業者へ売却、半導体収納ケースはメーカーへ返却しリサイクルを行う。その他の産業廃棄物をリサイクル可能な業者に処分委託する。

項 目		概 要
受賞者名		パイオニアマイクロテクノロジー株式会社 経営支援室
	所在地	山梨県甲府市
	開始時期	1998 年 7 月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2003 年度以降、リサイクル率 99%以上を継続している。特に 2004 年度は、リサイクル 99.97%と、ほぼ 100%を達成した。 ・ パイオニアグループ関連会社の協力を受け、当社独自で廃棄物処理ルートを開拓し、下記のようなリサイクル品目の拡大を図った。 <p>2001 年 10 月：汚泥をセメント原料にリサイクル処理開始。</p> <p>2002 年 12 月：廃プラスチック類を RDF 化しリサイクル開始。</p> <p>2004 年 12 月：廃プラスチック類の内、塩ビ材料を製鋼の還元剤としてリサイクル化開始。</p>

項目		概要
受賞者名		パイオニアコミュニケーションズ株式会社 業務支援部 総務課
	所在地	埼玉県所沢市
	開始時期	1999年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・2002年度は可燃ごみのリサイクル化を課題とし、リサイクル業者との契約を行いリサイクル率18%の向上となる。2003年度は11%の向上を図ることが出来た。 ・パレットの材料として木材及びプラスチック製のパレットを使用していたが、廃掃法の改正により木材パレットが産業廃棄物として処理できなくなったため、木材パレットは一時期焼却処理処をおこなっていたが、CO₂削減効果及び処理費用削減を考え、2004年度後半より「木材パレット」から「紙パレット」へ変更した。

項目		概要
受賞者名		株式会社 東芝 府中事業所 施設管理部 環境保全担当
	所在地	東京都府中市
	開始時期	1994年
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所の製品は、社会インフラ向けのインデント製品が主力であり、多種多様な廃棄物が発生する中、それぞれの廃棄物種類に応じたリサイクル方法を実現し、廃棄物ゼロエミッション率0.1%を達成している。 ・1993年に第一次東芝環境ボランティアプランを公表し、環境負荷低減活動に対して全社をあげて積極的に取り組む体制を構築した。
	開始時期	1994年
	活動の区分	リユース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・裏紙の使用（コピー用紙等）。 ・不要となった什器備品等の構内リユース。
	開始時期	1994年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・紙類等に比べてリサイクルが困難な多種多様の廃プラスチック類について、種類毎に最適なリサイクル方法を採用している。

項 目		概 要
受賞者名		シャープ株式会社 モバイル液晶事業本部 三重事業所
	所在地	三重県多気郡
	開始時期	1995年8月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 三重事業所では TFT 液晶ディスプレイ製造工程で大量に使用する純水及び薬液のトータルリサイクルに取組み、循環型社会形成思想のもと排出する産業廃棄物のリサイクルとリユースを推進し、環境負荷を低減している。 ・ 完全ゼロエミッションを目標に、全部門で廃棄物の排出量の多少に限定しないリサイクル活動を実施している。

項 目		概 要
受賞者名		東京電力株式会社 東火力事業所・西火力事業所・中央火力事業所
	所在地	東京都千代田区
	開始時期	2001年度下期
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 火力部門（本店、事業所、発電所）全体の目標として「2004年度までに産業廃棄物リサイクル率 100%達成」を設定するとともに、トップメッセージを電子メールにて火力部門全員（約 3,000 人）に発信し、リサイクルに関する意識醸成を図った。 ・ 全火力発電所のリサイクル情報を取りまとめ情報共有するとともに、各発電所に最適なりサイクル方法を確立した。 ・ 発生する廃棄物を「ゴミ」ではなく、リサイクル先の「原料」であるとの意識改革を行い、リサイクル先の受入条件に合わせるべく分別の徹底を実施した。

項目		概要
受賞者名		関西電力株式会社 姫路第一発電所
	所在地	兵庫県姫路市
	開始時期	1999年10月
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・関西電力環境方針「地球環境アクションプラン」の内、「循環型社会の構築に向けた活動の展開」の取組みを受け、ゼロエミッション（ゴミゼロ発電所）を目指し活動を開始した。さらに、当社で最初の ISO14001 の外部認証を取得するに当たり、所内「環境方針」を作成し、「循環型社会の構築」を行動指針に掲げ、3R活動を推進する取組みを確立した。 ・リデュース活動品目： コピー用紙、乾電池、蛍光灯、記録計チャート紙、廃プラスチック、事務用品、活性炭。
	開始時期	1999年12月
	活動の区分	リユース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・リユース活動品目： 活性炭、脱硝用触媒（バナジウム）、ポンプメカニカルシール部。
	開始時期	1999年12月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル活動品目： 生ゴミ、古紙（コピー用紙、新聞紙、雑誌等）、アルミ缶、ガスタービン吸気フィルター、化学薬品空き容器、生活排水。

項目		概要
受賞者名		山下 興一
	所在地	北海道旭川市
	開始時期	1960年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・先代創業の樽、びん等の回収事業を引き継ぎ、現在で3代目となっている。旭川市リサイクルセンターより生きびんの引取り及び小売酒販店からの回収、町内会、学校等各種団体の集団回収も実施している。親子3代にわたりリサイクル事業に従事してきた。現在では自治体回収事業にも貢献している。

項 目		概 要
受賞者名		細矢 日出男
	所在地	東京都中央区
	開始時期	1945 年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・先代が昭和 20 年創業。空きびん、古紙、スクラップ等の回収事業を引き継いできた。現在、東京都中央区の回収事業を委託されている。引き続き酒販店回収も実施している。 ・中央区の回収事業を委託され、自治体回収事業に大いに寄与している。中央区の行政回収では資源リサイクル（協）設立当初から参加し、主要な役職に就き貢献している。

項 目		概 要
受賞者名		鈴木 幸弘
	所在地	茨城県水戸市
	開始時期	1985 年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・先代創業のびん、古紙等の回収事業を引き継いできた。酒販店回収に加えて水戸市の資源組合にも加入し、びんの検品、選別、買取等を行っている。 ・水戸市における行政回収に協力し、社会的貢献もしている。また、地元青年部会に加入し、小中学校のリサイクル PR、啓発活動を行っている。

項 目		概 要
受賞者名		上嶋 庄治
	所在地	兵庫県西宮市
	開始時期	1977 年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・びん回収事業者より 1.8L びんを引取り、洗びんし、酒造メーカーに納入している。 ・洗びん事業を通じて、国の施策である循環型社会システム形成の一翼を担っている。

項 目		概 要
受賞者名		松村 幸治
	所在地	山口県防府市
	開始時期	1971 年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自社による酒販店よりの回収及び回収事業者からの 1.8L びん等の引取り。 ・ 父親が起こしたりリサイクル事業を引き継ぎ、現在に至るまで 30 余年間リサイクル事業を継続してきた。地域の回収システムを確立し、支部組織とした。 ・ 一般貨物運送も営み機動力を生かし、回収・輸送・納品の一環業務を推進している。

項 目		概 要
受賞者名		アキレス株式会社 断熱資材工場
	所在地	栃木県足利市
	開始時期	2002 年 6 月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃ウレタンは、自社のウレタンボードの製造工程で発生するウレタンボードの端材と、建築施工時に発生するウレタンボードの残材を足利工場に集約し、破碎し微粉体化した後圧縮して錠剤化する。この錠剤を既存の木質系ボードのパーティクルボードの製造ラインで、木チップとウレタン粉体を一定量（15～20%）混合し、接着剤で熱プレス成形、均一な熱成形板を製造する。 ・ 当該リサイクル製品のウレタン混入熱成形板（商品名：UR ボード）は、既存品のパーティクルボードと比較して、機械的強度（特に湿潤時の曲げ強さ）・耐水性に優れる特徴があり、パーティクルボードの用途拡大に資する。

項 目		概 要
受賞者名		アキレス株式会社 シューズ工場
	所在地	栃木県足利市
	開始時期	2003年4月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・学校内に設置した「リサイクルボックス」、段ボール製の大型回収箱を使って、使用済みの学童向け校内履き（バレースューズ）の靴底を回収している。回収した靴底は粉碎加工を行い、同じ性質の樹脂が効率的に集められ、それを他の材料と混合し、再びバレースューズの新しい靴底に成型する。子供達は、自分の履いたバレースューズを自分がリサイクルに参加し協力する事によって、環境保全につながっている事が意識できる。特に、回収の為の作業の一部を小学生に担当してもらうことにより、3R活動を身を持って経験するという、教育的効果も期待できる。

項 目		概 要
受賞者名		積水化学工業株式会社 京都研究所
	所在地	京都府京都市
	開始時期	2003年4月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・積水化学では以前より廃棄物削減活動を進めており、平成17年までに全事業所のゼロエミッション化が目標に挙げられ、当研究所も重点項目として推進。ISO14001を認証取得し活動を進める中、廃棄物の削減と再資源化を目的にゼロエミッションを推進。 ・規開発品のスクラップ等の廃棄物は廃棄物特性・安全データシート（全国廃棄物連合会様式）を使用し、処理業者に情報提供し運用している。 ・他工場や廃棄物の運搬・処理業者との日常的な情報交換により、リサイクル可能な多量発生した原材料等はルート探索を行う等連携を取って推進。

項目		概要
受賞者名		株式会社 竹中工務店 大阪本店 新千里桜ヶ丘住宅建替工事作業所
	所在地	大阪府豊中市
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<p>・当作業所は大阪府豊中市に位置する延床面積約 6 万 2 千㎡（住戸棟=7 棟：総戸数 524 戸+駐車場棟）、地上高さ約 60m（3 番館最高階）の大規模集合住宅建替工事であり、竹中工務店大阪本店より 3R を中心としたゼロエミッション活動の推進作業所として位置付けられた。内勤部門と一体になり、「建設副産物の削減」を作業所長方針として掲げ、ゼロエミッション推進作業所としての建設副産物の削減・CO₂削減を積極的に推進すべく、環境保全に効果のある技術・工法の採用や活動に作業所一丸となって取り組んでいる。</p>

項目		概要
受賞者名		株式会社 アース環境開発 企画部
	所在地	沖縄県那覇市
	開始時期	1993 年 11 月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<p>・特別管理産業廃棄物・産業廃棄物の収集運搬業の許可、処分業の許可をそれぞれ取得し、長年トータルで産業廃棄物の中間処理、再生利用研究開発に取り組んできた。これらの実績を踏まえ、平成 14 年 2 月より沖縄電力具志川火力発電所から排出される石炭灰の有効利用を図る RC-40（ポゾテック砕石 25%混）は沖縄プラント工業株式会社と共同で開発し、平成 15 年 1 月 31 日～3 月 31 日の工期で那覇市役所土木部道路建設課が発注した「市道西 29 号改良舗装工事」で下層路盤材として使用している。現在も継続して行っている追跡調査（供用試験）において、安全性・耐久性を確認している。一方、RC-40（アスファルト混）についても試験研究を重ね同様に、再生路盤材の技術基準を損なう事無く補足材としてコンクリート再生砕石と混合する事により、高市場性の製品になった。</p>

項目		概要
受賞者名		カムイ・エンジニアリング株式会社
	所在地	北海道川上郡
	開始時期	2003年8月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・地域で排出される廃棄物を原料とし、地域産業の創出を図るとともに、地域の美しい環境を保全しながら再生に努める。廃木材と廃プラスチック及び牧草ロールを利用したカムイウッド(木質複合材)の製造・販売。(必要でなくなった場合、再度粉砕し原材料として使用可能) ・標茶町役場や釧路公立大学地域経済研究センターと連携して研究を進め、事業化にあたり地域住民からの出資が得られた。地域ゼロエミッションを理念に、地域の廃棄物を原料として外壁材・デッキ材などの建材(使用后リサイクル可能)を製造している。

項目		概要
受賞者名		不動・橋本・奥田 特定共同企業体
	所在地	宮城県登米郡
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県発注の長沼ダムの長沼水門工事において 21,600 m³余りの汚泥が発生した。当初設計では管理型処分場(運搬距離 75km)に搬出する予定となっていたが、現場内での中間処理により全量リサイクルを行い、盛土工事等に再利用した。 ・当初、現場内に建設汚泥処理土を利用する場所がなかったため、施主と協議して盛土工事を変更追加してもらった。 ・宮城県は平成 15 年 11 月に「宮城県建設汚泥再生利用指針」を定めたが、この指針を適用して行う汚泥の再生利用は、当工事が県内でも相当に早い時期であり前例は見当たらなかった。

項目		概要
受賞者名		清水建設・熊谷組・佐賀組 特定共同企業体
	所在地	岩手県大船渡市
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・鷹生ダム建設（堤体工）工事において、量が多く産廃になる物について発注当初にリサイクル計画を発注者に提案し、徹底した分別・リサイクルを実行している。 ・地域貢献の一環として、定期的にボランティア活動（地域周辺のゴミ拾い、植樹祭の実施、地元の川へ鮎の放流等）を実施している。 ・当初段階において1次破碎施設を竣工まで置けるスペースに設置し、碎石製造機として活用した工事の進捗によって発生するコンクリート殻を碎石製造機に掛け再生碎石の製造を行い、現場内で全量路盤材等として再利用した。汚泥については大船渡振興局保健所の指導の下、盛土材として全量自ら利用を実施した。

項目		概要
受賞者名		農林水産省 近畿農政局 大和紀伊平野農業水利事務所 第二十津川紀の川農業水利事業建設所 施設機械課
	所在地	奈良県吉野郡
	開始時期	2004年11月
	活動の区分	リユース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、昭和30年～40年代に築造されたダム、頭首工をはじめとする農業水利施設の経年変化に対応する改修事業であり、安全な洪水の放流や確実な用水の取水に必要な大型ゲート等の改修を行っている。事業を実施していく上では、詳細な調査や機能診断を行うことで、全面改修ではなく再利用できる施設はより施設の長寿命化を図り、施設のリユースに心掛けている。そのなかで、吉野川分水に係るダム改修事業で3R活動を行っていることを、町内にダムのある地元小学生に紹介するため現場見学会を実施。見学会では、「3R」の意味・必要性を資料で教え、改修が始まった津風呂ダムの取組みは、“リユース：40年間使ったゲートを再使用”であることを説明した。

項 目		概 要
受賞者名		農林水産省 近畿農政局 大和平野農地防災事業所 工事課
	所在地	奈良県橿原市
	開始時期	1996 年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、大和平野に数多くある、老朽化し災害発生の危険性の高い農業用ため池 105 個の改修を行い、災害の未然防止、農業生産の維持を図る事業であるが、施工されるため池の改修工事では、池底に長年堆積した泥土（ヘドロ）が大量に発生するが、事業では泥土の有効利用を検討し、産業廃棄物処理することなく、土壌改良を行うことで提体（ランダム材）として流用している。 ・コスト縮減はもとより、産業廃棄物の有効利用を行い、発生量を抑制することを目的に、委員会を立ち上げ検討を行い成果を上げている。

項 目		概 要
受賞者名		農林水産省 近畿農政局 淀川水系土地改良調査管理事務所 亀岡農地整備事業建設所 工事課
	所在地	京都府亀岡市
	開始時期	2002 年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・635ha の未整備である農地を再編整備し農地の利用集積により経営規模の拡大・効率化を図ろうとするものである。区画整理工事区域内においては、既設のコンクリート水路や擁壁等が大量に発生するが、その破砕材を産業廃棄物処理せず、自工区内で再生処理を行い、支線道路の敷砂利材として全量利用している。併せて、既設の河川護岸等に利用されている間知石等を、新技術も採用しながら新設河川護岸材として利用している。さらに、掘削時に発生する泥土（ヘドロ）についても、無公害のペーパースラッジによる改良により盛土材にも流用している。 ・コスト縮減はもとより、新技術工法という民間技術力の活用、また地元住民の労力を借りることによる地元築造意識の醸成、農村集落における環境に配慮した施設設計に積極的に取り組みながらリサイクルが行われている。

項目		概要
受賞者名		大有建設株式会社 大江工場
	所在地	愛知県名古屋市
	開始時期	1972年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・我が国最大規模の総合再資源化工場（大江工場）を設置し、建設副産物の廃棄物を受入れ、再生材として骨材、加熱アスファルト混合物、路盤材などを製造販売している。 ・昭和53年：建設副産物の中でも最大量のコンクリート廃材の再生路盤材化技術開発。原石山採掘による自然環境破壊防止に貢献。わが国最大規模の総合再資源化工場（大江工場）完成。建設副産物廃棄処分地不足に対応。 ・平成8年：焼却灰埋立処分地不足、環境汚染の問題から電気溶融による廃棄物の無害化処理材の有効利用に関する研究開発着手。平成11年無害化施設共同設立。溶融スラグを破碎分級し、建設資材として使用。 ・平成12年：環境マネジメントシステムISO14001認証取得し、(認証NO.JQA-EM0879)環境に配慮した事業活動を行ってきた。

項目		概要
受賞者名		大成ロテック株式会社 関東支社 東京青海合材工場
	所在地	東京都中央区
	開始時期	1961年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・建設廃材中間処理業者として建設廃材のアスファルト塊、コンクリート塊を受入れ、再生材（アスファルト混合物、路盤用砕石等）を製造している。（アスファルト廃材リサイクル事業：20年間、コンクリート廃材リサイクル事業：2年間） ・当工場は都心中央部の立地条件を生かし、現在都内の慢性的な交通渋滞による諸問題である、①交通の鈍速度化、②経済的・時間的損失、③都市環境の悪化、④交通事故の増加に対し、出来得ることの実行として、リサイクル事業による資材運搬距離の短縮化、運搬効率による車両運行台数の減数化に工場職員全員による努力・検討を日々実施している。 ・現在、工場で使用の運搬車両には一台ずつ「GPS車両動態管理装置」を搭載して、車両の位置情報と状態を地図画面上に表示させリアルタイムな情報を取得することで効率の良い運行管理を実施している。

項 目		概 要
受賞者名		株式会社 NIPPO コーポレーション 新潟東合材工場
	所在地	東京都中央区
	開始時期	1983 年 4 月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 排出事業者から搬入されたアスファルト廃材を破砕・分級（13～0 mm）し、再生骨材としてアスファルトプラントで 10～30% 添加し、再生アスファルト混合物として販売している。 ・ 再生製品(道路舗装用アスファルト合材)の行政・関係団体への利用促進、普及を行い、一企業、一団体だけでなく、舗装材としての技術基準の確立に向けた活動を通じ、全国道路舗装材約 6,000 万 t の 70%を再生合材が占めるまでに普及させた。 ・ 当社では「がれき類（アスファルト廃材）」の再資源化設備（破砕施設）と再利用施設（アスファルト合材製造工場）がほぼ全国 106 施設あり同一敷地内で処理・再生品化しており、移送に伴う地域・交通・現場への負荷も少なく受入れ、保管、再資源化（破砕）、再利用（製品出荷）のバランスが一事業所内で完結出来る事で、時期、量に合わせた運営管理が有効に出来る。

項 目		概 要
受賞者名		鹿島道路株式会社 泉大津合材製造所
	所在地	大阪府泉大津市
	開始時期	1990 年 1 月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪府南部で排出される建設廃棄物の中で建設廃材（コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊）を受入れ、破砕中間処理により再生材（再生骨材、再生路盤材）の販売実施。 ・ 中間処理を開始より 15 年（合材販売開始より 26 年）という実績があり、地元業者との密接した営業を継続的に実施していることから、リサイクル法制定以前より地元業者への不法投棄低減・防止への活動を早期より実施し貢献してきた。 ・ 多数の顧客を持つ為、廃掃法・リサイクル法等制定時並びに改定時に広告・表示を行い顧客に対し先発的に不法投棄撲滅活動を行ってきた。

項 目		概 要
受賞者名		奥村組土木興業株式会社 堺リサイクル工場
	所在地	大阪府堺市
	開始時期	1993年7月7日
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自社の工場内にリサイクルプラントを建設し、不要となった建設廃材や残土をリサイクルし、建設資材として再利用している。 ・ 大阪府循環型社会形成推進条例が制定され、第1回の公募により当社では再生クラッシャーラン（RC-30・40）改良土の3品目が認定された。 ・ 産業廃棄物の最終処分場の容量の限界を目前にして今の社会において産業廃棄物の再利用により環境に配慮した循環型社会形成への貢献。

項 目		概 要
受賞者名		大林道路株式会社 関東支店 久喜アスファルト混合所
	所在地	東京都墨田区
	開始時期	1988年2月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 建設廃材（アスファルト塊、コンクリート塊）を回収し、建設資材として100%再生し、製品として販売している。 ・ 再生製品を製造する際に環境に影響を与える、防塵・防音等の対策に対応した施設、機械等を設置している。最終処理施設が少ない、産業廃棄物（建設廃材）が適正に処理ができることにより、不法投棄防止の効果がある。 ・ 取引先に資源の再利用、産業廃棄物（建設廃材）の適正な処理の必要性を認識させる営業展開を行い、産業廃棄物の不法投棄防止に努めている。 ・ 平成16年8月に工場をリニューアルしたことにより、再生合材の生産能力を強化（40t/h→60t/h）して増加する産業廃棄物（建設廃材）の受入れを強化した。

項 目		概 要
受賞者名		世紀東急工業株式会社 北陸支店 新潟合材工場
	所在地	東京都港区
	開始時期	1987年11月18日
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・建設廃材を受入れ、クラッシャープラントで破砕処理し、再生合材や再生路盤材として100%再利用している。 ・クラッシャープラントで破砕処理後、アスコン廃材は再生アスファルト合材の原料として再利用し、またコンクリート廃材は、再生路盤材として再利用する。 ・昭和62年11月中間処理業を取得し、全国及び地方的において早い時期からリサイクル事業を開始。アスコン廃材はもとより、平成15年度より積極的にコンクリート廃材の受入れを推進し、開設以来の累計数量で約39万tを受入れ処理している。

項 目		概 要
受賞者名		株式会社ガイアート T・K 多摩合材工場
	所在地	東京都西多摩郡
	開始時期	1991年10月1日
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・アスファルト廃材を回収し、建設資材（再生骨材、再生路盤材）として、リサイクル製品を製造している。 ・破砕能力は低下するが、一次破砕機にロータリー方式を採用する事により、低騒音であり粉塵抑制に貢献している。 ・産業廃棄物として受け入れたアスファルトコンクリートをリサイクルして、100%再生資源として利用し、新材の使用を抑制する事により自然保護にも貢献している。 ・近隣企業及び住民に迷惑を掛けない為に、説明会を開催し公害対策を十分に考慮して低騒音の破砕機を採用し、防塵塀を高くする事で騒音と粉塵抑制し地元との融和を図るよう努めている。

項目		概要
受賞者名		積水ハウス株式会社 つくば支店 建築課
	所在地	茨城県つくば市
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・新築施工現場ゼロエミッションの活動を通じて、率先して現場での 27 分別及び現場美化、廃棄物削減に取組み、2000 年のベンチマークからの廃棄物の発生量を約 4 割削減した。現在更に徹底した削減に取り組んでいる。 ・現場での分別を徹底することにより、部材単位での原投入量の削減目標が明確にされ、更なる徹底した削減が期待できる。また、工場と密接に連絡を取りながら生産工程へのフィードバックを行っており、全社への波及効果も高い。 ・現場のリデュース活動と工場のリサイクル活動、広域認定の取得を含め、会社全体としての主体的な取組み事例は他に類を見ないもので、EPR の宣伝効果を併せ社会に大きな影響を与えている。

項目		概要
受賞者名		北陸地方整備局 港湾空港部 伏木富山港湾事務所
	所在地	富山県富山市
	開始時期	2004 年 3 月
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・現場の杭施工を実施するに当たり、大量の建設汚泥が発生するため、この減量化を図るべく、分級し再生した土を継続工事（今後発注予定を含む）で活用することにより、建設汚泥の産業廃棄物処理場へ負荷軽減、場外搬出運搬車両台数低減による地域住民ならびに環境への負荷軽減を目的に本工法を採用した。 ・建設汚泥の産業廃棄物処分場への負担軽減、場外搬出運搬車両台数低減による地域住民ならびに環境への負担軽減した。

項目		概要
受賞者名		五千石築堤その5工事 長鐵工業株式会社
	所在地	新潟県長岡市
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・堤防強化工事に伴い移植不可能な桜の木を伐採する事となったが、この伐採木をチップ化し肥料を造った。 ・地域住民（区長・役員）の協力を得て、発生した桜の枝・根の全てを肥料化し配布する事が出来た為、伐採木は、一切処分場に持ち込む事にならなかった。地域住民からも完熟した良い肥料で家庭菜園・畑等で活用出来ると喜んでもらえた。堆肥と混ぜる事により醗酵速度を速め簡易的に肥料化が出来た。 ・肥料作成時に異臭が発生する可能性があった為、家屋から離れた場所にて肥料を作成した。

項目		概要
受賞者名		株式会社村田製作所新本社建設 第I期建築工事 戸田・三井住友・前田 共同企業体
	所在地	大阪府大阪市
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・梱包材はダンボール、金具、帯材、接着剤等が混在しており、分別・リサイクルにもコスト及び環境負荷がかかる。当作業所は延床面積 43,588 m²の大型ハイテク事務所建築であり、仕上げ材の梱包の簡素化は建設副産物の発生自体を約 20%抑制できた。
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・着工時から「ゼロエミッション」計画を立案し、当作業所で発生するリサイクル困難品目を特定し、メーカーリサイクル（広域再生利用認定）の可能性について徹底的に調査した結果、それまでリサイクル困難であった吹き付けロックウール、タイル、ケイカル板のリサイクルルートを開拓した。各ルートに受入れ可能とするための分別の徹底及び廃棄物そのものの発生の抑制に取組み、平成 16 年 9 月末日をもって「ゼロエミッション」を達成した。

項 目		概 要
受賞者名		大成建設株式会社 横浜支店 富士写真フイルム株式会社 吉田北 YDM 棟増築工事作業所
	所在地	神奈川県横浜市
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 本件工事の施工に当っては、作業所独自で実施した建設副産物の徹底分別収集、アイドリング・ストップ運動の他、工事発注者の理解を得た上、木製型枠の代わりに鋼製型枠を使用し熱帯材の削減に努めた。 ・ 16 ヶ月の短工期。延べ床面積 12,152 m²の建築工事の施工過程で発生する建設副産物を、確実に分別収集した。 ・ 当作業所は、静岡県島田市の製紙関連工場に至近という地域性を生かし、紙くず・段ボールの完全回収・リサイクルを計画。回収品は東海パルプに持ち込み 100%リサイクルした。

項 目		概 要
受賞者名		鹿島建設株式会社 東京事業本部 東京建築支店 住宅事業部 (仮称) 目白プロジェクト新築計画工事事務所
	所在地	東京都豊島区
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築解体工事で発生するコンクリートガラを、新築工事の人工支持地盤材料として再利用している。 ・ 敷地外へ搬出する解体コンクリートガラを場内でリサイクルとして再利用し解体ガラ的大幅削減に成功。それに伴い運搬車両の排気ガス、騒音抑制に寄与。 ・ 流動化処理土と解体コンクリートガラの練混ぜの実験を行い、強度が十分であることの確認をし、確認申請機関の了承を得た。

項目		概要
受賞者名		株式会社 熊谷組 寺畑トンネル作業所
	所在地	宮崎県延岡市
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> トンネル工事に伴う掘削土（掘削ズリ）を場外に搬出する予定であったが、良質な砂岩を主体とした岩質であったため、場内で破碎することにより砕石化し、道路の路盤材に用いる碎石の代替利用を提案し採用した。これにより、建設工事に伴い発生する土砂（建設発生土）のリサイクルに資するとともに、場外搬出に伴うダンプ騒音の防止、交通障害の防止に寄与した。 トンネル掘削ズリを場内で移動式クラッシャーによる一次破碎を行い、延岡道路2工区（7.8km）の大部分の区間で下層路盤材として流用した。下層路盤材としての品質は、利用前に公的試験機関に持ち込み確認を取った。

項目		概要
受賞者名		熊谷・奈良・小雀建設共同企業体 平戸永谷川作業所
	所在地	神奈川県横浜市
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> 自治体発注の建設工事から生じる伐採材について、当初、これを当該自治体の緑政局が利用する予定であったが、需要の見込み量が想定を下まわったため、処分の必要性が生じた。このため、この伐採材をチップ化し、以下の有効利用を実施した。 <ol style="list-style-type: none"> ①法面吹付緑化工法（「ネッコチップ工法（熊谷組開発）」の採用により、伐採材をチップ化したものを吹付材料として、現場内で利用した。 ②現場内、裸地の植生土壌化のためにマルチング材として現場内で利用した。 ③公園園路舗装材、広場の植生土壌化のためのマルチング材など、当該自治体の他の行政部局による利用の促進のために、引取車両への積み込みなどについても積極的に取組んだ。

項目		概要
受賞者名		五洋建設株式会社 西部臨海ポンプ場建設工事事務所
	所在地	広島県広島市
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の管理型最終処分地は、生活環境保全上の不安等から新規埋立て地の確保が困難となっている。よって環境保全、建設リサイクルに対する社会的必要性は高まっており、特に建設汚泥のリサイクルは、急務となっている。そこで、連続地中壁工事で発生した建設汚泥を特殊プラントで造粒固化し、改良土として自工事の埋戻し土に再利用した。 連続地中壁工事から発生する、高含水比の建設汚泥を特殊ミキサーの中で水溶性ポリマーと固化材を混入し攪拌して粒状化し、良質の埋戻し土とする。 建設汚泥を改良することによって、その排出量を無くしたと伴に、出来た改良土を自工事に『自ら利用』した為、埋戻し土を購入する事無く、二重に建設費の縮減が達成された。

項目		概要
受賞者名		五洋建設株式会社 坂下船渡共同溝工事事務所
	所在地	東京都板橋区
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> 余剰となった泥水をシールド工事における裏込注入材の助材として使用する SSG 工法を採用、又、切羽安定材としても使用し、発生する汚泥量（二次処理土）の低減を行った。 建設汚泥の目標低減量 290 m³以上に対し、約 1.8 倍にあたる 531 m³の低減をはかった。 新技術の SSG 工法として、実施工に採用、建設汚泥の削減化に対し、著しい成果・実績を上げ、工法の評価を高めた。

項 目		概 要
受賞者名		琴川ダム建設工事 清水建設・大林組・天野工業共同企業体
	所在地	山梨県東山梨郡
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> 清水建設株式会社のゼロエミッション取組み現場として、4R運動（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）を掲げ、廃棄物の搬出抑制、リサイクルに積極的に取組みを行った。また、平成16年度に山梨県と「トライ産廃スリム」協定を締結し、廃棄物の発生抑制・適正処理に取組みを行い、その活動が認められ、山梨県知事より「トライ産廃スリム取組事業者認定証」の交付を受けた。琴川ダム作業所は、「トライ産廃スリム」の中核現場として、模範となる取組みを実施した。

項 目		概 要
受賞者名		西松建設株式会社 東北支店 東部共同溝出張所
	所在地	宮城県仙台市
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> 建設副産物の3Rへの積極的な取組みが求められるなかで、シーールド工法で共同溝を築造する当現場において、「ゼロエミッション活動計画書」を作成して、建設汚泥の発生抑制に努めた。 地域住民や学校の生徒など一般人を対象とした見学会を多数開催して、工事の状況を積極的に一般公開し、高度なトンネル技術など土木工事への理解と、環境保全への取組みへの理解とともに深めてもらうため多くの努力を払い、関係者の大きな信頼を得ている。 気泡シーールド工法の採用およびボンテラン工法の採用により、建設汚泥の98%に及ぶ発生抑制を達成した。
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> 現場から発生する建設副産物の分別を徹底し、リサイクルを推進し、「ゼロエミ」を目指す。 リサイクルの対象は 建設発生土、段ボール、アスコンがら、建設汚泥および廃油。

項目		概要
受賞者名		五洋建設株式会社 (仮称) 所沢寿町西地区共同ビル新築工事 現場職長会 (寿会)
	所在地	埼玉県所沢市
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業廃棄物最終処分量の3分の1を排出している建設業に従事する者として、建設系産業廃棄物排出量のリデュースを推進することによって最終処分量を減らし、循環型社会育成に寄与して行こうと職長会会議で決議した。(ゼロエミッション) ・ただ単に建設現場内の活動に留まらず、処理委託している建設系産業廃棄物処理施設の見学会に参加することで、実際に自分たちが出したゴミがどのような大変な作業を経て処理されるかを作業員自身が自覚し、現場での3R活動への明確な動機付けが出来るように現場職長会自身が企画し実行した。

項目		概要
受賞者名		五洋建設株式会社 浜町 BD 計画建設工事事務所
	所在地	東京都文京区
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・場内にゴミ箱を設置せず、且つ分別保管場所に安易な投げ込みを行わないルール作りを職長会が中心となって行うことで作業員が一体となり、違反者の発生を作業員全員が声掛けで防止する雰囲気作りに努めた。 ・グローバルな視点での環境活動の重要性を自覚させる講習会を現場で開催することなどにより、現場での3R活動は単にゴミを減らすと言うことではなく、次世代に向けて重要な責任を果たしているのだと作業員全員に自覚してもらうように努めた。 ・資材を運搬する専門業者が、各施工業者から発生する廃棄物を施工場所から分別保管場所への運搬まで請け負うことで、「分別知識が高いスタッフによる確実な分別」「運搬費用削減に向けての施工業者の施工ロス削減努力」を実現した。

項 目		概 要
受賞者名		清水建設株式会社 建築事業本部東京建築第三事業部 財団法人癌研究会 有明病院他施設新築工事 建設所
	所在地	東京都港区
	開始時期	2002年6月
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・外壁の型枠材等の減量化：PC外壁、床。 ・梁型枠材の減量化：鉄板型枠。 ・設備資機材の省梱包、無梱包化。
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートガラを再生生コンの骨材に利用し、捨てコンに使用した。 ・当社と関包スチールの共同開発になる、一体型鋼板梁型枠材（セコフォーム）を使用する中で、当現場に合うように改善していた。

項 目		概 要
受賞者名		五洋建設株式会社 浦安駅前子ども・高齢者施設建築工事 現場職長会
	所在地	東京都文京区
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の産業廃棄物最終処分量の3分の1を排出している建設業に従事する者として、建設系産業廃棄物のリサイクルを推進することによって最終処分量を減らし、ひいては排出量を減らすことで循環型社会育成に寄与して行こうと職長会会議で決議した。 ・ただ単に建設現場内の活動に留まらず、処理委託している建設系産業廃棄物処理施設の見学会に参加することで、実際に自分たちが出したゴミがどのような大変な作業を経て処理されるかを作業員自身が自覚し、現場での3R活動への明確な動機付けが出来るように現場職長会自信が企画し実行した。

項 目		概 要
受賞者名		株式会社大林組 東京本社 都営港南四丁目 JV 工事事務所
	所在地	東京都港区
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・大林組が過去実施してきた「現場ゼロエミッション活動」及び発注者である東京都の「東京都建設リサイクルガイドライン」に則り、ゼロエミッション活動を実施する。 ・東京都が推進する過積載防止・不正軽油使用禁止・アイドリングストップ活動に従い、重機車両運転手に対する指導・助言を行った。 ・独立行政法人 雇用・能力開発機構が発行する機関紙「つち」に、当現場職長会が実施しているゼロエミッション活動が紹介された。 ・鉄筋のジョイント継手の納品をダンボールから金属パレットに変更することでダンボールゴミの発生量を減らした。
	活動の区分	リサイクル
活動実績		・再生砕石・再生コンクリート等、リサイクル素材の使用。

項 目		概 要
受賞者名		栃木県総務部県庁舎整備室
	所在地	栃木県宇都宮市
	開始時期	2003年8月
	活動の区分	リユース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・発生したコンクリート塊を、現場内にて破砕処理を行い、現地埋め戻しとした。建設発生土を、公共工事間で再利用する。 ・発生土については、設計段階より受入れ先との協議を進め、搬出時期・数量・運搬距離の調整を行い、効率のよい工事を実現した。 ・県民から注目されている本庁舎の解体工事において、リユース活動を率先して行うことにより啓発効果が期待できる。また、大型車両台数を抑制することで、周辺道路の交通渋滞を軽減した。 ・コンクリート塊の破砕・再生処理について、周辺への騒音・粉塵飛散に注意を払った。

項目		概要
受賞者名		株式会社大林組 浦和駅西口南工事事務所
	所在地	埼玉県さいたま市
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・熱帯材の減量。 ・プレカットの推進。 ・梱包材・養生材の減量。 ・アイドリングストップの徹底。 ・残土処分の減量。 ・近隣の高砂小学校の児童を対象に現場見学会を開催し、当現場の3R活動等を説明して、環境保全への理解を深めてもらった。
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物の分別の徹底。 ・高い数値目標を設定（最終処分：5kg/m²、混合廃棄物排出量：1.9kg/m²）し、リサイクル率を向上させる。

項目		概要
受賞者名		独立行政法人都市再生機構 神奈川地域支社 業務第一部 基盤整備チーム
	所在地	神奈川県横浜市
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・建替団地（藤沢団地）の旧建築物躯体コンクリートを現地再生し、運搬後、他地区の都市再生事業（辻堂神台地区）の都市計画道路および駅広場の路盤材として使用することにした。 ・発生コンクリート塊の全てを再生砕石製造・活用することにより、他の施設への処分を要しなくなった。

項 目		概 要
受賞者名		独立行政法人都市再生機構 埼玉地域支社 業務第一部 基盤整備チーム
	所在地	埼玉県さいたま市
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・都市再生機構の建替え事業から発生するコンクリート塊を、土地区画整理事業地へ搬出したうえで、現地において再生砕石を製造し、道路路盤材及び小構造物基礎材として使用することで地区間活用を図る。 ・発生地区におけるコンクリート塊の再生化は、騒音、振動等による近隣への環境対策上極めて困難な場合が多く中間処理施設への処分としていたが、地区間利用することで処分費コストの低減を図るとともに近隣対策としても環境対策上の問題点が解消される。

項 目		概 要
受賞者名		独立行政法人水資源機構 草木ダム管理所
	所在地	群馬県勢多郡
	開始時期	2003年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ダムの管理所では、毎年洪水等により発生する流木のリサイクルが問題となっており、草木ダム管理所では流木の再利用について地域と一体となった取組みを行うと共にリサイクルに関するコスト削減を図るものである。 ・流木の処理に当たり、広報活動を通じて一般の人による需要を開拓し、流木の再利用の推進を図ると共に、配布した流木による「流木アートコンテスト」を地域と一体となって開催し地域振興に貢献している。

項目		概要
受賞者名		財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) 仙台スタジアムごみ減量大作戦プロジェクト
	所在地	宮城県仙台市
	開始時期	2003年
	活動の区分	リユース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・環境社会実験「仙台スタジアムごみ減量大作戦」を平成 15、16 年度の 2 年間に渡り実施し、プロサッカーチーム「ベガルタ仙台」の仙台スタジアムでの主催試合において、スタジアムから出るごみの内容・量を調査し、分別・回収方法の改善等を通じてごみの容量(かさ)を減らすとともに、売店でのリユースカップ「マイタンブラー」を導入し、ごみ減量を図った。さらに、スタジアムの観客に横断幕でごみ分別・減量の啓発を行った。 ・1 試合 1 万数千人の観客に対する取り組みで、規模の大きさとごみ分別・減量の効果は極めて大きい。(16 年度のマイタンブラー使用実績：40%)

項目		概要
受賞者名		株式会社 中西
	所在地	愛知県豊明市
	開始時期	1977年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 39 年、空きびん商として開業以来、一貫して資源の回収に取り組み、昭和 52 年から開始した豊明市の古紙、古着、空きびんの資源回収をはじめ、多くの周辺市町村のリサイクル活動に協力するとともに、NPO との交流、連携を通じ、ごみ減量、リサイクルの啓発に力を注いでいる。 ・昭和 60 年から知的障害者の雇用を始め、平成 17 年には 18 名の知的障害者が正社員として就労するなど、障害者の雇用促進、社会復帰に貢献している。

項目		概要
受賞者名		広陵町商工会
	所在地	奈良県北葛城郡
	開始時期	2000年7月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・靴下の生産過程で発生する縫製くずは、産業廃棄物として排出されていた。手芸材料として再利用することにより、ごみ減量に貢献している。また、縫製くずの利用啓発に積極的に取り組み、全国の老人福祉施設、小中学校などに幅広く手芸材料を提供し、社会福祉活動にも貢献している。(平成16年度縫製くずリサイクル量 43.4t) ・このリサイクル活動は、個人として活動するにはなかなか困難であることから、広陵町商工会が主動し、業界が抱える環境問題である産業廃棄物処理の課題に取り組むために、全国に先駆け活動を開始した。

項目		概要
受賞者名		株式会社イサカエンタープライズ
	所在地	千葉県松戸市
	開始時期	1993年2月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・飲料メーカー及び自治体からの飲料空容器回収処理による資源物(カン・ビン・ペットボトル)のリサイクル活動。 ・分別技術が困難で残渣となっていた廃プラスチックの再生化による最終処分量の削減。 ・今までは残渣として「焼却」「埋立」の処分をされていた廃プラスチック(ビニール袋)の再生化に成功した。 ・工場のラインを改良し、資源物(カン・ビン・ペットボトル)及び廃プラスチックの再生率向上を図っている。

項目		概要
受賞者名		株式会社 東芝 研究開発センター 施設・環境保全部 環境保全担当
	所在地	神奈川県川崎市
	開始時期	1990年
	活動の区分	リデュース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・東芝グループの経営理念に基づき、研究開発センターの環境保全基本方針に謳った「かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継ぐことが人間の基本的な責務である」との認識のもとに活動を推進。 ・2003年度は基準年の1/149の使用量まで削減された。
	開始時期	1990年
	活動の区分	リユース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・2003年度から2004年度にかけて直接的に38.6tのリユースを実施。これに伴う意識高揚などにより、55.6tの廃棄物総量の削減を達成した。
	開始時期	1990年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・2001年度より廃棄物ゼロエミッションを達成し、最終処分量を廃棄物総量の1%以下に維持管理している。

項目		概要
受賞者名		社会福祉法人 セーナー苑 やまびこの丘 アルミ缶プレス班
	所在地	富山県富山市
	開始時期	1992年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・障害者（児）に適した仕事内容を任せ、各自が自分の役割に応じて活動している。（アルミ缶回収、洗浄、プレス、荷運び保管等）また、富山県内における施設としての役割は大きく、継続して活動を続け収益金の一部で植樹等自然保護に努めている。 ・セーナー苑は、昭和41年設立認可され、富山県内でも特徴ある授産施設として活動しており、障害者の作業訓練と社会参加を目指している。

項目		概要
受賞者名		たんぼぼの会
	所在地	愛知県稲沢市
	開始時期	1990年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> 平成11年作業所「たんぼぼハウス」を立ち上げ、リサイクル活動を15年に渡り継続している。廃品回収等を行い、障害者作業所の運営を支援している。 長年にわたるリサイクル活動を通じて目的を達した現在も引き続き、サポート体制の維持として廃品回収を行なっている。 地域の障害者（児）の保護者が集まり、子育てを援助する学習会や養護学校卒業後の場所（作業所）づくりとして、資金集め（廃品回収リサイクル品バザー）を始めた。

項目		概要
受賞者名		ハウステンボス株式会社 パーク本部 パーク運営部
	所在地	長崎県佐世保市
	開始時期	1995年4月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> 場内の厩舎から排出される馬ふん・敷藁と生ごみを混合し、好気性発酵菌を加えることにより、堆肥化に成功した。また、生分解性プラスチック製ごみ袋の採用により、袋ごみの発生をなくした。 CSR（企業の社会的責任）の一環として行っている、佐世保市内の全小学校4学年（約40校、約2,500名）対象の「ハウステンボス環境学習」というプログラムの中で、ホースランド（厩舎）での馬ふんのコンポストの解説プログラムを導入するなど環境学習への応用を図っている。また、平成17年度の夏のイベント「アースリズム」の中で、「手作りリサイクル楽器教室」（イベント名「カッチ先生のこどもアースリズム工房」）を企画するなど、社会に対するリサイクルの啓発イベント化にも力を入れている。

項目		概要
受賞者名		長野市環境部環境第一課
	所在地	長野県長野市
	開始時期	1995年8月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き缶等資源になる物のリサイクルの推進及び収集コスト低減のため、資源物集積所での定期的回収が4週に1回であることから、それを補完するため、平成7年より日曜日にスーパーマーケット等の協力を得て各駐車場に収集車両を派遣し、「サンデーリサイクル」と呼ばれる拠点回収を実施継続している。また、ごみの減量とリサイクルの推進のため、平成8年よりごみ指定袋（当時は可燃、不燃の2種類。16年からは容器包装プラを追加し3種類）の購入チケット制、購入実費負担制度及び年間排出ごみの一定量超過分の一部有料化制など導入し、資源物への分別の誘導を図っている。

項目		概要
受賞者名		三菱電機株式会社 電子システム事業本部 鎌倉地区
	所在地	神奈川県鎌倉市
	開始時期	2001年4月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・ 三菱電機株式会社 電子システム事業本部 鎌倉地区では、外販を含めた昼食数が8,500/日に及び、発生する厨房雑芥、厨房残飯が約1.1t/日発生している。この残飯を発酵処理装置で発酵分解すると1週間で約1tの程よく熟成された生成品が生産される。 ・ 生成品の利用先を静岡県の肥料会社（浜松）から近隣篤農家に変更することにより利益を地域の篤農家に無料配布還元し、地産地消を実現している。

項 目		概 要
受賞者名		‘95. 3Rの会
	所在地	東京都目黒区
	開始時期	1996年
	活動の区分	リユース
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全先進国であるドイツ・デンマークの廃棄物・リサイクル事情を見聞し、そのノウハウを研究し、東京都内にて3R推進活動を展開。紙パック、新聞、アルミ缶などを用いたリユース活動やグリーン商品購入促進を一般消費者へ啓発。 ・一般消費者への啓発活動をボランティアが主体となって活動を行い、老若男女誰にでも受け入れられるプログラムを展開している。メンバーのアイデア・工夫により、まず自分達で作れるリユース製品を考案し、アイテムを拡大している。
	開始時期	1996年
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・1995年東京都生活文化局消費生活海外交流調査団に10名が参加し、ドイツ・デンマークを見聞して帰国後、都内を中心に活動を開始。 ・グリーン商品の消費者への啓発、特にトイレットペーパーの再商品化に取り組む。

項 目		概 要
受賞者名		学生ボランティア『ぼらぼら』
	所在地	神奈川県藤沢市
	開始時期	1998年4月
	活動の区分	リサイクル
活動実績		<ul style="list-style-type: none"> ・活動主体であるボランティア団体については、1998年4月から活動している。県立座間谷戸山公園において、公園内の雑木林を良好に管理するため、間伐、枝打ち作業を実施する他、剪定、下草刈り、落ち葉かき、これらの作業に伴う発生材の集積などを実施している。間伐、枝打ち等により生じる植物性発生材を利用して「カントリーヘッジ（木柵）」を作成した。 ・公園内発生材を公園内で再び資材として利用することにより、貴重な資源のリサイクルを身近に見て感じ、体験できる。

—● 平成 17 年度リサイクル推進功労者等表彰受賞別索引 ●—

■内閣総理大臣賞

関東建設廃棄物協同組合…………… 5

■国務大臣・内閣府特命担当大臣・経済財政政策担当大臣賞

社団法人 札幌消費者協会…………… 6

クリーンむさしのを推進する会…………… 7

■文部科学大臣賞

昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校…………… 8

■経済産業大臣賞

東洋インキ製造株式会社 印刷・情報事業本部 オフセット事業部

有限会社アップコーポレーション

J F E コンテナ株式会社 営業企画室・物流管理室…………… 9

■国土交通大臣賞

株式会社竹中工務店 東京本店 NIPPO 蒲田 3 丁目共同住宅新築工事…………… 10

戸田建設・東洋建設・山陽建設共同企業体 山田川ダム本体工事作業所…………… 10

清水建設株式会社 建築事業本部 東京建築第三事業部

(仮称) 豊洲 IST ビル新築工事 建設所…………… 11

株式会社大林組 東京本社 地球環境室…………… 12

積水化学工業株式会社 住宅カンパニー…………… 13

■環境大臣賞

春日市生活環境組合連合会…………… 14

■リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞

あ

アキレス株式会社 シューズ工場…………… 39

アキレス株式会社 断熱資材工場…………… 38

油藤商事株式会社…………… 31

天羽田子供会…………… 15

稲城市リサイクルショップ運営委員会…………… 19

SRI グループ スミラバー・インドネシア社 チカンペック工場…………… 30

SRI スポーツ株式会社 市島工場…………… 30

大洲市徳森婦人会…………… 17

大角 正信	21
大林道路株式会社 関東支店 久喜アスファルト混合所	46
奥尻町高齢者事業団	15
奥村組土木興業株式会社 堺リサイクル工場	46
オムロン株式会社 業務総括部 東京事業所 虎ノ門業務課	27

か

学生ボランティア『ぼらぼら』	64
鹿島建設株式会社 東京事業本部 東京建築支店 住宅事業部 （仮称）目白プロジェクト新築計画工事事務所	50
鹿島道路株式会社 泉大津合材製造所	45
株式会社 アース環境開発 企画部	40
株式会社 イサカエンタープライズ	60
株式会社 磯野商店	26
株式会社 大林組 浦和駅西口南工事事務所	57
株式会社 大林組 東京本社 都営港南四丁目JV工事事務所	56
株式会社 ガイアート T・K 多摩合材工場	47
株式会社 熊谷組 寺畑トンネル作業所	51
株式会社 三興	23
株式会社 竹中工務店 大阪本店 新千里桜ヶ丘住宅建替工事作業所	40
株式会社 東芝 研究開発センター 施設・環境保全部 環境保全担当	61
株式会社 東芝 府中事業所 施設管理部 環境保全担当	34
株式会社 中西	59
株式会社 NIPPO コーポレーション 新潟東合材工場	45
株式会社 西原商店	26
株式会社 藤川紙業	25
株式会社 村田製作所新本社建設 第I期建築工事 戸田・三井住友・前田 共同企業体	49
上嶋 庄治	37
カムイ・エンジニアリング株式会社	41
亀岡市立千代川小学校	20
川崎重工業株式会社 総務部 地球環境室	29
関西電力株式会社 姫路第一発電所	36
北九州松下電工株式会社 製造部生産技術課	25
‘95.3Rの会	64
協栄化成株式会社	24
熊谷・奈良・小雀建設共同企業体 平戸永谷川作業	51
広陵町商工会	60

五千石築堤その5工事 長鐵工業株式会社	49
琴川ダム建設工事 清水建設・大林組・天野工業共同企業体	53
こまばりサイクルの会	21
五洋建設株式会社 浦安駅前子ども・高齢者施設建築工事 現場職長会	55
五洋建設株式会社 (仮称)所沢寿町西地区共同ビル新築工事 現場職長会(寿会)	54
五洋建設株式会社 坂下船渡共同溝工事事務所	52
五洋建設株式会社 西部臨海ポンプ場建設工事事務所	52
五洋建設株式会社 浜町BD計画建設工事事務所	54

さ

財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)	
仙台スタジアムごみ減量大作戦プロジェクト	59
清水建設・熊谷組・佐賀組 特定共同企業体	42
清水建設株式会社 建築事業本部東京建築第三事業部	
財団法人癌研究会有明病院他施設新築工事 建設所	55
シャープ株式会社 モバイル液晶事業本部 三重事業所	35
社会福祉法人 セーナー苑 やまびこの丘 アルミ缶プレス班	61
昭和電工株式会社 化学品事業部門	24
鈴木 幸弘	37
生活協同組合コープやまなし 環境対策室	16
世紀東急工業株式会社 北陸支店 新潟合材工場	47
積水化学工業株式会社 京都研究所	39
積水ハウス株式会社 つくば支店 建築課	48

た

大成建設株式会社 横浜支店	
富士写真フイルム株式会社 吉田北 YDM 棟増築工事作業所	50
大成ロテック株式会社 関東支社 東京青海合材工場	44
大有建設株式会社 大江工場	44
たねや グループ 総務部エコロジー推進課	22
たんぽぽの会	62
調布わりばしりサイクルグループ「くるりん」	18
東京電力株式会社 東火力事業所・西火力事業所・中央火力事業所	35
東芝家電製造株式会社 家電機器開発部	
東芝家電製造株式会社 総務部 環境管理担当	
東芝家電製造株式会社 愛知商品製造部 製造技術・生産管理担当	28

特定非営利活動法人 ザ・ピープル	16
独立行政法人水資源機構 草木ダム管理所	58
独立行政法人都市再生機構 神奈川地域支社 業務第一部 基盤整備チーム	57
独立行政法人都市再生機構 埼玉地域支社 業務第一部 基盤整備チーム	58
栃木県総務部県庁舎整備室	56

な

長野市環境部環境第一課	63
西松建設株式会社 東北支店 東部共同溝出張所	53
農林水産省 近畿農政局 大和紀伊平野農業水利事務所 第二十津川紀の川農業水利事業建設所 施設機械課	42
農林水産省 近畿農政局 大和平野農地防災事業所 工事課	43
農林水産省 近畿農政局 淀川水系土地改良調査管理事務所 亀岡農地整備事業建設所 工事課	43

は

パイオニアコミュニケーションズ株式会社 業務支援部 総務課	34
パイオニアマイクロテクノロジー株式会社 経営支援室	33
ハウステンボス株式会社 パーク本部 パーク運営部	62
パナソニック モバイルコミュニケーションズ 株式会社 横浜地区	32
彦根市立城陽幼稚園	18
日立工機株式会社 環境本部 環境推進センタ	33
広島県広島市立日浦中学校	20
富士電機リテイルシステムズ株式会社 製造統括本部 埼玉工場 製造部 製造技術課	27
不動・橋本・奥田 特定共同企業体	41
北陸地方整備局 港湾空港部 伏木富山港湾事務所	48
細矢 日出男	37
本町南町会美化部	17

ま

松下冷機株式会社 冷機デバイス事業部 草津工場 断熱デバイス製造チーム	28
松村 幸治	38
丸紅株式会社 機能アパレル部	23

三菱電機株式会社 福山製作所 生産システム推進部	29
三菱電機株式会社 電子システム事業本部 鎌倉地区	63

や

山下 興一	36
-------	----

ら

竜王町商工会 事務局長 沖 良治	31
------------------	----